

概要版

徳島県キャリア教育推進指針Ⅱ

# とくしまの未来を切り拓くキャリア教育



## 趣 旨

Society5.0時代の到来やグローバル化が一段と進展する中、人生100年時代を迎え、子供たち一人一人の未来を支援し、将来どこで活躍していても徳島に想いを馳せることができる、そうした持続可能な社会の創り手育成につながるよう、これまでの取組について成果と課題を分析し、今後5年間の徳島県におけるキャリア教育の新たな方向性を示す指針「徳島県キャリア教育推進指針Ⅱ『とくしまの未来を切り拓くキャリア教育』」を策定します。

## 成果と課題

さきの「徳島県キャリア教育推進指針」では、6つの課題をもとに取組の方向性を定め、キャリア教育の充実に取り組んできました。この5年間の取組からは、各学校段階とも**自己肯定感が向上**したり、高等学校の**インターンシップ実施率が上昇**したりするなど、**成果**が現れています。この成果とともに、今後5年間の取り組む必要がある課題をまとめると…

- 各学校の接続段階で、自己肯定感が低下する傾向にあるため、更なる**自己肯定感の向上**のためには、**接続を意識した取組**が必要
- 社会参画の意義や意味の十分な理解**とともに、地域への関心を高めるための学校外での多様な活動の周知などの**地域と連携した取組**が必要
- 将来の夢や目標につながる**各学校段階での**キャリア形成の接続を意識した取組**が必要
- 働くこと**の理解のためには、**家庭・地域・企業等との連携や周知**、特に高等学校では、更に「アカデミック・インターンシップ」の充実に向けた**取組**が必要
- 児童生徒が、**主体的に学んだことと社会（働くこと）への接続を意識した学習活動**に取り組む必要
- 成年年齢引下げを踏まえ、**予期せぬ人生上の困難に遭遇したときの対処法に関する教育を充実**する必要
- 特別支援学校では、発達段階に応じて、**子供たちの「働きたい想いの醸成」と「職業技能の向上」を切れ目なく図る**必要

となります。

これらを踏まえ、今後5年間のキャリア教育の充実に向けて、各学校の教育目標に応じ、取組を推進していきましょう。



また、これらの課題に対応する上で、大切となる「縦の連携」と「横の連携」に着目してみると、右のように捉える事ができます。

# 徳島県におけるキャリア教育で身に付けさせたい資質・能力

さきの「徳島県キャリア教育推進指針」で示した4つの力に、新学習指導要領等を踏まえ、新たな視点を組み込みました。

※【 】内は、主に対応する基礎的・汎用的能力

## かかわる力 【人間関係形成・社会形成能力】

多様な他者の考え方や立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

本県においては、「ふるさととくしま」をベースに、社会の変化に対応し、多様な個人や集団、社会とかかわる力を育むことにより、他者と協力・協働して今後の持続可能な社会を形成していくために必要な**コミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップ等の育成**を図る

## みつめる力 【自己理解・自己管理能力】

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ今後の成長のために進んで学ぼうとする力

本県においては、「キャリア・パスポート」等を活用し、試行錯誤した経験の振り返りをもとに、自分自身を客観的・肯定的にみつめる力を育むことにより、キャリア形成において基盤となる**自己理解能力や主体性、忍耐力等の育成**を図る

## すすむ力 【課題対応能力】

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

本県においては、**様々な課題を捉え、粘り強く地道に挑戦を繰り返す**、物事を前に進めていくすすむ力を育成することにより、様々な課題に対応し、解決していくために必要な**発想力や計画構想力、実行力、情報活用能力等の育成**を図る

## えがく力 【キャリアプランニング能力】

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

本県においては、**人生100年時代を見据え**、社会人・職業人として生きていくために将来の「生き方」をえがく力を育成することにより、**学ぶことや働くことの意義や将来設計力等の育成**を図る

未来を生きる子供たちに求められる資質・能力は、身に付いた知識・技能をもとに、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を発揮して、学びを人生や社会に生かそうとする、学びに向かう力・人間性、すなわち「**学び続ける力**」であるといえます。

予測困難な未来は、思いどおりにならないからこそ、**未来は創り上げていくもの**であり、その中で新たに「**切り拓いていく**」ものでもあります。

子供たちが初めから自分の限界を設定し、あきらめてしまわないよう、将来はどこからでも始められることを伝え、**チャレンジし続けられる**ことを、伝えましょう。





## 推進方針と今後の取組

### 1 「ふるさととくしま」を知る・考える機会の創出・拡充

- ・とくしまをベースに多様な人々と関わり、「かかわる力」を育成
- ・とくしまをベースに働くことを学びの方向性につなげる「みつめる力」を育成

#### 必要な アプローチ

- とくしまの「よさ」「強み」を知り、学んだことを活用する仕組みづくり
- 地域課題を学び、社会参画意識を高め、貢献する意欲の醸成
- 事前・事後指導を充実し、体験を生かす運用の工夫

#### 例えば,こんなこと・・・

- ▶ 「あわ教育サポーター企業等データベースシステム」の積極的活用や地域と連携した取組の実施及び活用
- ▶ 地域の課題解決に取り組む学校段階に応じた好事例の普及
- ▶ 地域での体験的活動(職場体験・地域行事・フィールドワーク)の実施を充実

#### 幼児期

人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わう活動を重視

#### 小学校

体験を通じて職業や働く人への興味関心を高める機会を増やすことに加え、上級学校への接続を意識した振り返りの実施

#### 中学校

目的を達成するための道筋や手立てを明確にした職場体験活動と適切な振り返りを組み込んだ活動を一層活用

#### 高等学校

将来の在り方・生き方を見据え、地域で貢献し、活躍する多様な職業人と関わる機会の設定や、接続する学校段階の先を意識して、高等教育機関が有する人的資源や物的資源の活用推進

#### 特別支援学校

地域の活動に参加するなど、将来にわたって地域で活躍できる力を身に付けることができるよう、交流及び共同学習を推進

